

# 宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第8週の発生動向

### 全数報告の感染症（8週までに新たに届出のあったもの）

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核 9例。3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1例。  
4類感染症：マラリア 1例。5類感染症：報告なし。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
			70歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
			70歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70歳代	女	結核性胸膜炎	発熱
			90歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
		延岡	70歳代	男	肺結核	咳、痰
		高鍋	80歳代	男	疑似症患者	咳
		日向	50歳代	男	無症状病原体保有者	—
中央	70歳代	男	肺結核及び結核性胸膜炎	咳、痰、発熱		
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	30歳代	女	無症状病原体保有者	症状なし O91(VT1産生)
4類	マラリア	宮崎市	20歳代	男	三日熱	発熱、血小板減少 海外渡航歴あり(パプアニューギニア)

### 《前週との比較》

### 定点把握の対象となる5類感染症

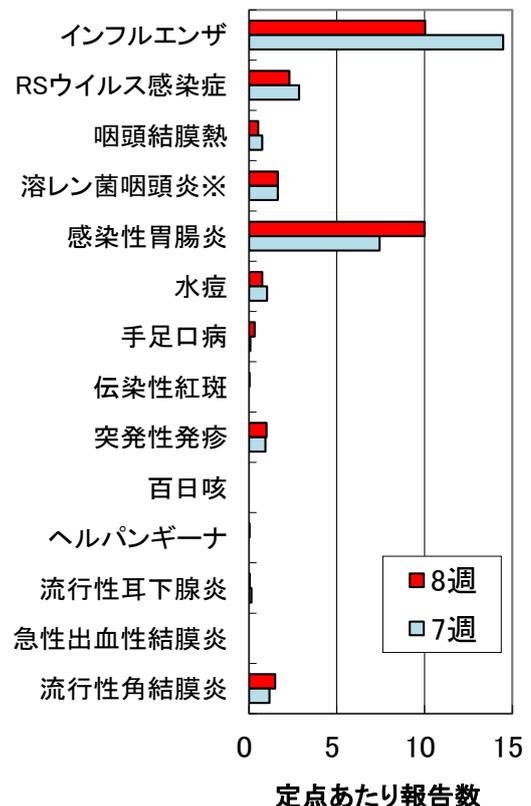
・定点医療機関からの報告総数は1,201人（定点当たり28.2）で、前週比92%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はインフルエンザとRSウイルス感染症であった。

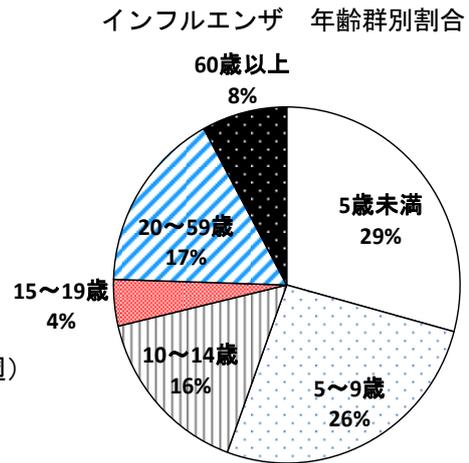
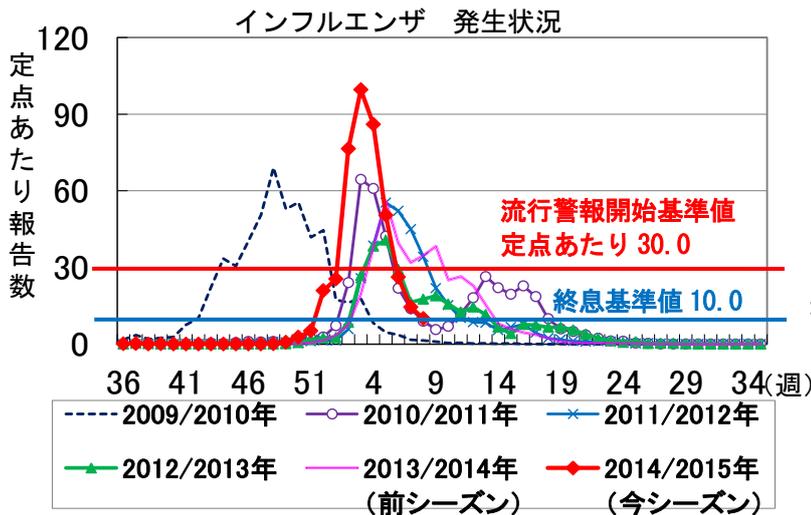
### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

#### 【インフルエンザ】

・報告数は592人（10.0）で、前週比69%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*（23.9）の約0.4倍であった。小林（23.6）、中央（21.5）保健所からの報告が多く、年齢別では5歳未満が全体の29%、5-9歳が26%、10-14歳が16%、15-19歳が4%、20-59歳が17%、60歳以上が8%を占めた。

\* 過去4年間の当該週、前週、後週（計12週）の平均値

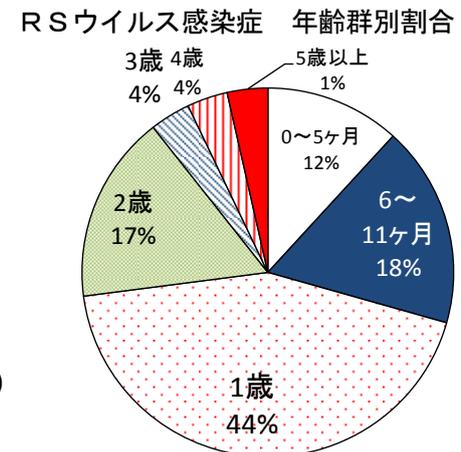
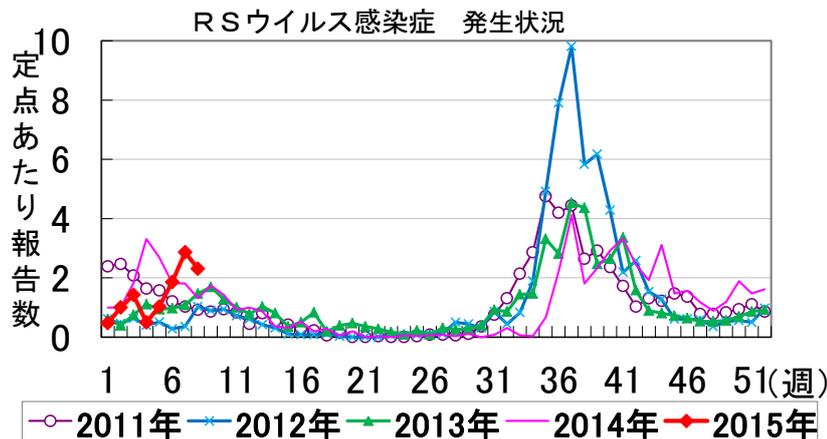




#### 【RSウイルス感染症】

・報告数は83人(2.3)で前週比81%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値\*(1.4)の約1.7倍であった。延岡(13.5)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳が全体の約4割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



#### ★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	インフルエンザ(10.3)
日南	インフルエンザ(16.6)
小林	インフルエンザ(23.6)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	インフルエンザ(21.5)

\*流行注意報レベル基準値\*  
 ・インフルエンザ(10.0)

□ 病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成 27 年 2 月 23 日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	5～9歳	女	2015.1.29	—	便	2015.2.6
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	5～9歳	男	2015.2.2	百日咳疑、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2015.2.16
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	0～4歳	女	2015.2.3	—	便	2015.2.16

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	検出日
インフルエンザウイルス AH3型	0～4歳	男	2015.02.04	インフルエンザA、38.4℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2015.02.10
RSウイルス	0～4歳	女	2015.02.09	RSV細気管支炎、下気道炎(気管支炎)、無呼吸発作、39℃	咽頭ぬぐい液	2015.02.20
RSウイルス	0～4歳	女	2015.02.13	RSV細気管支炎、下気道炎、細気管支炎、鼻汁、咳嗽	咽頭ぬぐい液	2015.02.20

○インフルエンザ A と診断された小児 1 名からインフルエンザ AH3 型が検出された。当所におけるインフルエンザ検出数の推移をみると昨年 12 月に 6 例、1 月に 30 例であった。

○RSV 細気管支炎と診断された乳児 2 名から RS ウイルスが検出された。RS ウイルス感染症は乳幼児に多い急性呼吸器感染症であり、生後 1 歳までに半数以上が初感染を受けるとされている。母体からの移行抗体が存在する生後 1 か月未満でも感染する可能性があり、無呼吸の原因となることがある。

📊 全国第 7 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 7 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	290 例				
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	8 例	腸チフス	2 例
	パラチフス	1 例				
4類感染症	E 型肝炎	1 例	A 型肝炎	4 例	デング熱	3 例
	レジオネラ症	19 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	20 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	15 例
	急性脳炎	5 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 例
	後天性免疫不全症候群	17 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	27 例	水痘（入院例）	4 例	梅毒	17 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	風しん	11 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 77%と減少した。今週増加した疾患は流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はインフルエンザと RS ウイルス感染症であった。

インフルエンザの報告数は 60,030 人(12.15)で、前週比 64%と減少した。福井県(23.4)、新潟県(21.6)、大分県(20.6)からの報告が多く、年齢別では 5 歳未満が全体の約 20%、5～9 歳が 30%、10～14 歳が 19%、15～19 歳が 4%、20～59 歳が 20%、60 歳以上が 7%を占めた。

RS ウイルス感染症の報告数は 1,586 人(0.5)で、前週比 83%と減少した。宮崎県(2.9)、福岡県(1.3)、愛媛県(1.2)からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月～1 歳が全体の約 6 割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第8週(2月16日～2月22日)

疾病名		第7週	第8週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	854	592	115	90	72	83	118	40	8	23	43
	定点あたり	14.47	10.03	7.19	9.00	10.29	16.60	23.60	6.67	4.00	3.83	21.50
RSウイルス 感染症	報告数	103	83	6		54			10		12	1
	定点あたり	2.86	2.31	0.60	0.00	13.50	0.00	0.00	2.50	0.00	3.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	27	19	3	1	2	5				8	
	定点あたり	0.75	0.53	0.30	0.17	0.50	1.67	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	59	59	24	3	9	6		7		7	3
	定点あたり	1.64	1.64	2.40	0.50	2.25	2.00	0.00	1.75	0.00	1.75	3.00
感染性胃腸炎	報告数	268	360	114	66	10	54	51	29	5	21	10
	定点あたり	7.44	10.00	11.40	11.00	2.50	18.00	17.00	7.25	5.00	5.25	10.00
水痘	報告数	37	27	7		13		1	2		4	
	定点あたり	1.03	0.75	0.70	0.00	3.25	0.00	0.33	0.50	0.00	1.00	0.00
手足口病	報告数	3	12	7	1		1		2		1	
	定点あたり	0.08	0.33	0.70	0.17	0.00	0.33	0.00	0.50	0.00	0.25	0.00
伝染性紅斑	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	34	36	13	3	3	4	4	3		5	1
	定点あたり	0.94	1.00	1.30	0.50	0.75	1.33	1.33	0.75	0.00	1.25	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		1				1					
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	5	2	1							1	
	定点あたり	0.14	0.06	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	報告数	7	9	9								
	定点あたり	1.17	1.50	3.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7  
 上段:報告数  
 下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～8週)

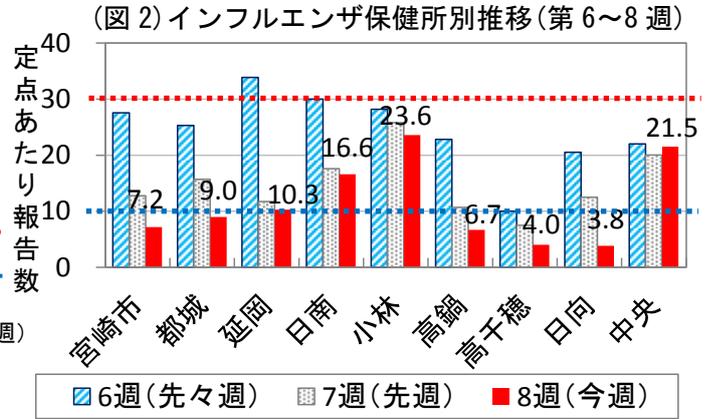
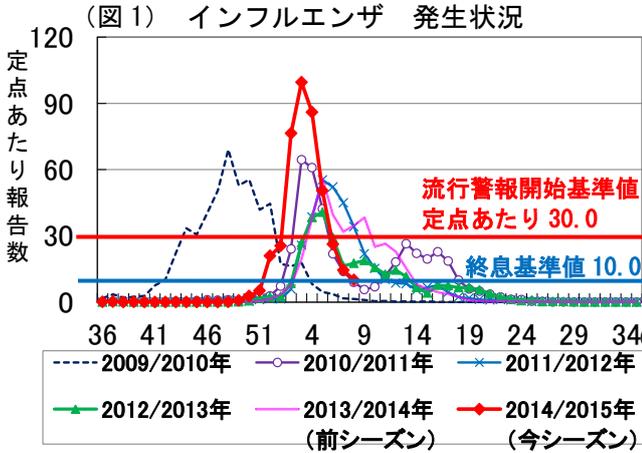
2類感染症	結核	40例(9)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例(1)			
4類感染症	つつが虫病	3例	マラリア	1例(1)	
	ウイルス性肝炎	1例	急性脳炎	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症
	梅毒	2例	播種性クリプトコックス症	1例	破傷風

( )内は今週届出分、再掲

## インフルエンザ情報 《県内第8週、全国第7週（再掲）》

### □ 県内第8週インフルエンザ発生動向

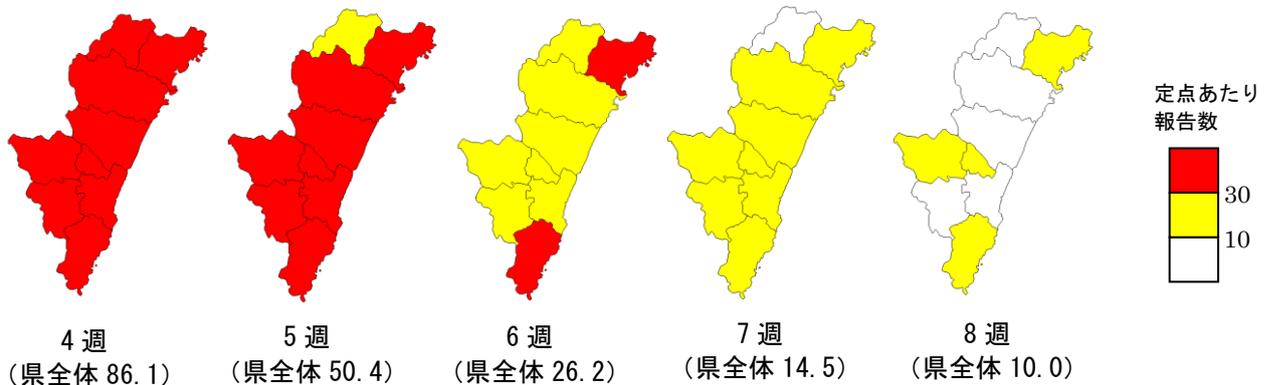
2015年2月16日～2月22日までの1週間で592人（定点あたり10.0）の報告があり、前週の約0.7倍に減少した（図1）。例年同時期の定点あたり平均値（23.9）の約0.4倍であった。保健所別報告数を（図2）、年齢群別報告数の割合の推移を（図3）に示す。



(図3) 年齢群別割合の推移(第4～8週)

週	5歳未満	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～59歳	60歳以上
4週 5,077人	23%	31%	19%	4%	16%	7%
5週 2,973人	25%	31%	18%	4%	15%	7%
6週 1,546人	28%	32%	17%	3%	15%	5%
7週 854人	25%	30%	17%	5%	17%	6%
8週 592人	29%	26%	16%	4%	17%	8%

保健所別インフルエンザ警報・注意報レベル状況 第4～8週



### □ 全国第7週インフルエンザ発生動向

2015年2月9日～2月15日までの1週間で60,030人（12.2）の報告があり前週比64%と減少した。福井県(23.4)、新潟県(21.6)、大分県(20.6)からの報告が多く、全47都道府県で前週より減少がみられた。年齢別では5歳未満が全体の約20%、5～9歳が30%、10～14歳が19%、15～19歳が4%、20～59歳が20%、60歳以上が7%を占めた。